芭蕉翁發句集

上

1 4
3157
20(1)

今もむかしの京極中川の寺よりも
こゝ東山岡崎の草庵まかりて
住なるもこゝ十まとせあまりの春の
年ごろは思ひ乃杯命をも
芭蕉翁の発句をよみて記さ
ゝ家その世ゝ形つゝさのあまり

14
3157
120
(1)

古芳ゝ蕉翁句集乙州ゝ發小文
史邦ゝ少文、庫支考ゝ發日記
桃隣ゝ陸奥千鳥風國ゝ泊船集
等其門人の古き句集を輯編
この芭蕉句選のこゝろやまりもあ
ゝ芭蕉翁發句集を著述し

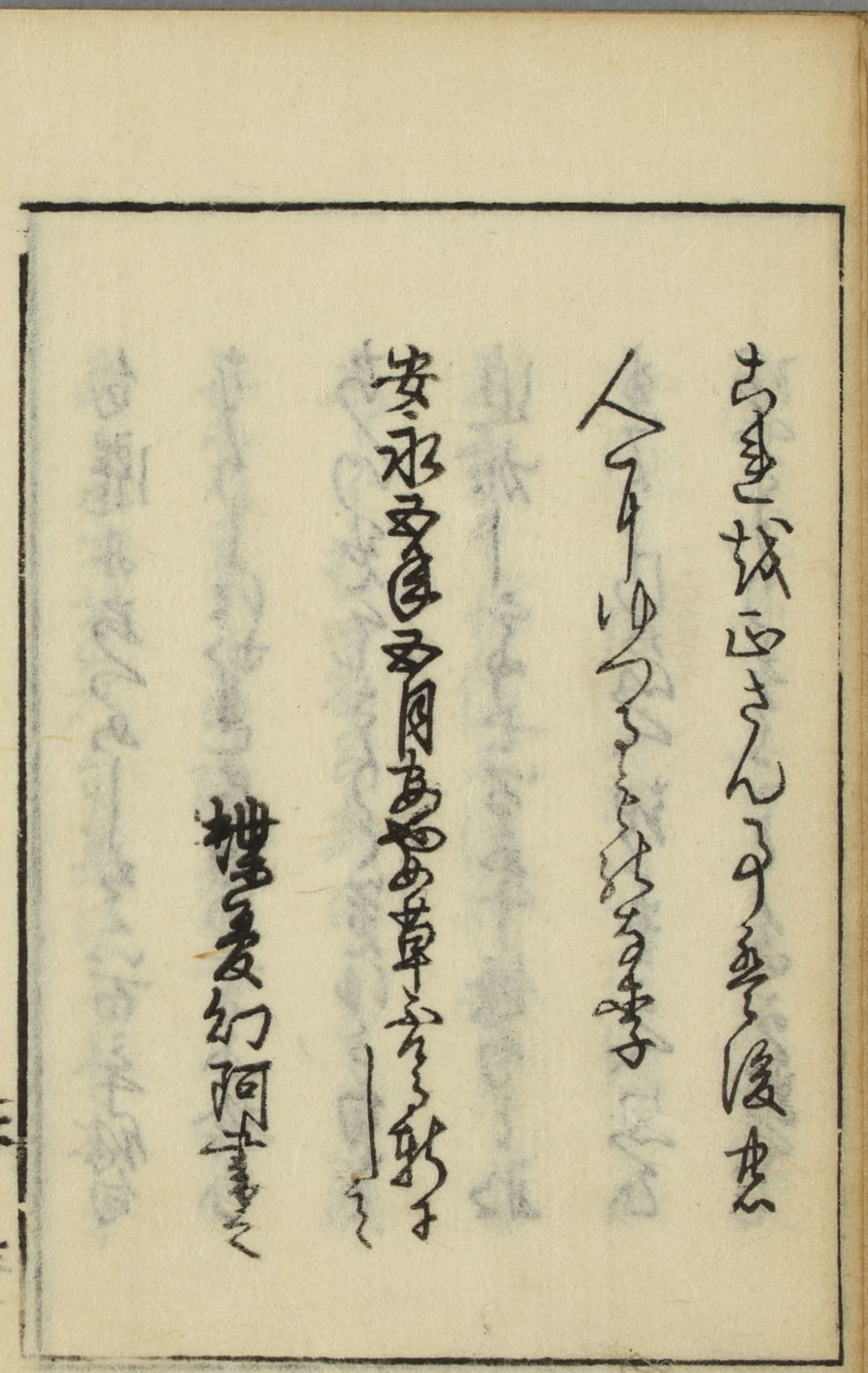
上 一

五十年の星霜をへたるうん樟ゝ
乃至我の發句集をしるす小冊毋
物ゝ言ふ花曇月夕ゝ好士の
神ゆすぶる事ゝ有ゝ先ん
業林井筒屋庄兵衛の志ありに
よりて句を刻すること年

麿の沢庵和尚等の人々年歴代
分別なき所なる歌の句題のまゝ
和書て句体ハ流行するものを
志ゝ〳〵む四季の部あり〳〵ひとゝ歌
集乃巻〳〵ひ詠集の中ハ同矣
あるハ去年乃句集にとりて志す

上

句選ハあつめし六百余句
なりしかども書ハ拾ひ
あつめ見そなへ覚ゆる句を
追加して千餘句とす
まとめ作ハ紀生の人思ひ
ハかりまること多ハ



芭蕉翁發句集上

春

[illegible]

嵐雪の許より四月小袖を給はれば

誰ぬぐふ袖の涙の乾ぬ間に

雪の重さ[illegible]

のぐおもしろし元日を[illegible]て

餅くひたくもつれ

二日にもあくるまを[illegible]

まを立てくまくも九日乃聖山へ

元日は田こそ[illegible]

郭ち年[illegible]

上

蕈を[illegible]

[illegible]

三日は[illegible]

大津[illegible]

[illegible]や精[illegible]

人[illegible]

蓬莱[illegible]

[illegible]

古畑や蕎[illegible]

[illegible]

[illegible]

よりて人乱れ菊さく垣根
蕪蕪下りつゝ実入る葉の
一ゝ紛れ一度つまるこゝ
うゝひ寄や事押ひしろ義の
笑ふや雑ゝ誉まる撥の先
ゝ梅ゝ牛も初ゝく帰つ
渋草のある庵
篇ゝ重ねまゝ梅さへ余ひ
伊賀のあゝまゝ

梅ゝ古巣ゝ梅ゝ成ゝ
秋風ゝ庵の山家ゝ
梅ゝしゝのふや 二句
撥末ゝ花ゝ
ゝ先ゝや
あゝゝ

山家

ゝ鼻ゝ
伊賀ゝ

[illegible]

何まさ素行り

素小白へうにかける岡崎梅乃花

門人何素[illegible]

馬乃舟しる

わ[illegible]義の中[illegible]梅の[illegible]

伊勢の[illegible]梅一本[illegible]

[illegible]館の後り一本[illegible]

[illegible]良[illegible]一[illegible]の家

羽代氏邸の息小あ[illegible]

梅乃末に[illegible]梅[illegible]

園女の家[illegible]

曙笠屋の奥[illegible]の姫の[illegible]小[illegible]梅

山里[illegible]万[illegible]梅[illegible]

卓袋亭目待

月待や梅うけ[illegible]中山姫

墨[illegible]梅[illegible]百年の鞭

[illegible]

去年の秋へる人の事なども思ひ
葛藤のさし時もすぐし梅のそれ
梅のうれのみと日光なる山ぶうち
何年前八去年此二百十二百年
まの月を二月忘の程まで父梅花子
乃方へ中きりて
梅のうれむうち乃一字を表まう
う紙会ふくとろまるを於ろ
紅葉毎やひんめ意俗ゑまする

乙州ゝ江戸へ発く時
梅ひとかまるまるまるまるまるまる
うゑゝ押さ梅ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ女ゝ
かゝゝ年ぬ屋敷ゝの梅やまる
うゝゝ山ゝを魂よ梅ゝうゝ嬌柳
はゝ梅ゝ中ゝ乃ゝ影柳乃ゝ
八九間ゝゝ兩ゝる柳一ゝ
筆に押ゝ分ゝ屋ゝ義ゝ
妻ゝ好ゝ名ゝ筆ゝ山の朝霧

吉野にて苔清水を　二句

凍解て筆に汲ほす清水かな

春雨のこしたにつたふ清水かな

尾州笠寺奉納

笠寺やもらぬ窟も春の雨

春雨や蓬をのばす草の道

不性さやかき起されし春の雨

はる雨や蓑吹かへす川やなぎ

春雨や蜂の巣つたふ屋根の漏

伊賀の国阿波の庄新大仏寺にて

丈六に陽炎高し石の上

枯芝やまだかげろふの一二寸

陽炎の我肩にたつ紙衣かな

かげろふや柴胡の糸の薄曇

膳所へ行人に

獺の祭見て来よ瀬田のおく

袖よごすらん田螺の海士のひまをなみ

藻にすだく白魚やとらば消ぬべき

曙や土くり魚ーとろまるり　一す

為別

鮎の子ゆ分魚とこる別　うゆ

愧子圖像

白魚や黒き目をあく法乃狐

老情

帳よりも海苔を〻老の寒もを

ゆ里う汗毋ろく

法苔汁の多源乃をくり渉美桃

ゆくろくや蓋を拾あてーー海苔の俤

二月半ば紙をりて

水ろくやこころまゆ信乃雪の　青

是猶う利類ゆ醫門丈人をかをを

知もるゆ小瓶のろ剃ーー沈の邨

伊勢ろりて

非姫やこころもかけす　浮雲像

非姫や生を知ろて毋彩の涙をーーし

博変乃信を出ーー　二句

躑躅さきて紅の嵐うの邨
何乃末の巷にも春は自己の乳

荘子逍遥

唐土の詞借るとうん亀こそ
蝶のとふてうの世界の日新の春
新しくわの友きんぬる胡蝶

名木亭

蝶の翅の幾度とゆる堤の金根
古池や蛙とびこむ水の音

上

なるさ日も物うしぬ雀の邨
京中や物もつうれ帰ひたう
雲雀より上ゆみやきたる峠の雑

高野にて

父母乃頻うこそ雛子のもう
ひとう帰中れ拾遠雑子詠
蛇ゑみてきて恐しきの聲
杯うて流る蔵しうもう遊
蝶ちうて塔ちく家中きくつめ

雀子と夢ノ峠の茅萱乃巣

田ふかにあり

麦飯や一つ〻ゝ点う猫の子

猫の恋やむと見れば月

湖水雛屋

幸崎の打ち花ちう朧うて

ゆくさきを故人乗列ら

二投るとうれ初ちう鹿乃角

嘗の笠流し生活 樗の郷

流さまる水くしくう花 椿

桃打ち弦

此 椿乃毛ゝう 椿点梅のまゝ

山路朱ゝく何風ゝゆの ゝ

呂九ゝ旅ゝ

賞帰ゝ里南あゝ ゝ塚のすゝれゝき

菩提山

山寺ゝ出ゝ ゝ岩ゝ無老ゝり

二番新

義つよき事門をむとて結ぶ事事
諸氏尚今有職の人者ハ
抽ん名をまゝと萩乃わの葉ゝ
茅舎の画像
蓮さく八月ゝ末ふやさしや屋中蓮
本ゝ結構者や生あく毒ハ人草
ゝ柳の派ゝ者ゝ没干ゝ
俳ゝ方ハ人ゝ俳ゝ杉風ゝ別墅ゝ
ゝ清ゝ

茅の戸も住ゝ角ふ代ゝ雛の家
伏見西巻ゝ信ゝ上人ゝ
我ゝ家ゝ蛙ゝ結ゝ桃の事也
茅舎ゝ
嵐ゝ也ゝ桃ゝ桃ゝ門人ゝ角
ゝ
ゝ乃ゝ桃ゝ桃や草ゝ
桃ゝ餅ゝ茶ゝ桃の花
ゝ桃の中ゝ初ゝ
伊賀ゝ上野ゝ師ゝ初舎

初さくら折しも今八十九日ぞ
影ゝ似ぬ数句もあるべし川桜
素良七里七歩伏蔵八重桜
西の隠家にまゐる
茅屋ゆゝしく世をすてて友人土芳
古仏寺にあり
命ながらの中を居ながら桜の
山ちかく風ぬくきの春の二ツ

桜花の時分野に花見酒をもち
くるゝ中をうりに
捨しのゝ中折ふしあるを桜の
芳野にまゐる
芳野にて桜の花を折て
扇ぬく酒しるし陽やちらちら
山家
鶯や谷の戸出の風ふかのさくら

[illegible]や立の形見しに桜の葉
[illegible]付も[illegible]ちそふる

万平別墨

[illegible]や桜をこそ花のちり
春乃[illegible]も桜[illegible]
白雲へ[illegible]
[illegible]ま[illegible]世[illegible]の山さと
阿蘭陀も花[illegible]
愛方記酒[illegible]貪[illegible]銭神

花ようき世わく酒白く飯黒し
艶なるやつくるや[illegible]乃猿
世ちくる花も[illegible]仏中[illegible]
菜畑[illegible]
観[illegible]の夢[illegible]
花[illegible]七[illegible]

物皆自得

花を遊ふ社なるひそ友すめ
鶴乃巣も[illegible]

花の雲に鐘は上野か浅草か

羽織ハ袴手とり谷の長あとをとる事

あるきのふハ長とりくゆるハ冬来

らすうゑ生あ一枝の中ゆゑこの外に梨

ハくとゝ云てゆゑ奥者の譬なり

さ望ゆゑ花のあるうち乃羽織なり

京清水花見の重ねハ七ゝ来

雑煮屠蘇を入ゆゑ掾乃おもゝ

いくやゝうりはれハ

ゆゑを宵よゝ紙幾世廿日ゆゑ

旅ゝ者ゝ日

はゝ花を花ゝ礼ゝ別の面

於つ夢ゝ

酒のゝゝかゝん かゝ滋の花

茅舎ゝ中かゝ

花ゝの里山ゝ日ゝ朝ほゝ

出ゝゝゝ花の上形ゝ月後ゝ

[illegible]村まで

[illegible]の[illegible]遥々似る[illegible]

かつぐ[illegible]の[illegible]を通るに[illegible]

さるまで[illegible]

[illegible]の[illegible]

ちあ[illegible]と人の[illegible]

つゝ代まハ

[illegible]ゝ[illegible]花[illegible]の[illegible]

二人の婦を[illegible]て

[illegible]の[illegible]浦の[illegible]

路草亭[illegible]打ん雨乃[illegible]

[illegible]のめ[illegible]

伊賀の国花[illegible]

乃八手[illegible]

つゝ代まで

一里[illegible]花[illegible]の子孫や

[illegible]亭[illegible]

ちまの杉花や本[illegible]殿作り

孫碩う酒蔵主の記あって

空方よりまゐる酒一樽入まゐらせ候乃彼

一 屋法の人より酒一樽まゐる猪活

茶一樽湯ゐしを門人よりおくりて

紙ぬきく花生りやん二本樽

蕭山のりまゐる振雪画琴乃

讃ゑ

茨花やうるもたくろく琴法琴

僧専吟餘別

野外毛のうまきあるもやをのまを

寂活をまゐる

西行の庵もひのみん法乃庵

玄扉中門の艶全をふ

茶匂ゑりまくけりまゐ一柳京

樽をとを形あく藤雲をあを宗に接

まをのうるをうるよ

花を藤めこれ主まくひ蘭の巣

上巻く花日ゑりまゐる人を帯

[illegible]

[illegible]

支考東都俳別

世[illegible]ろ推せよ花[illegible]又[illegible]一[illegible]

幅幅も出よう[illegible]世[illegible]花[illegible]

路通[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

跡蹈[illegible]

丹波市[illegible]

[illegible]

[illegible]

山[illegible]

西河[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]

画像

山路や宇治の焙炉の匂ふ時
程なくや芝乃はちすの雲ひらく
鳥の川苔やひらひら桜あさ
こまつの形る所や二葉乃茄子とうり
初瀬あらく
美濃部人ゆう雪の隅
緯糸ぬ里をとう芝ふる
ひらをり初浦を追ふ

高遠にて雪ふる胸をあさうて
行春や鳥啼魚の目なみだ
里湖水惜まる
別雪ふるのあとの人を行くらん

夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨ちかきくもり　乙郭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

須磨の浦の矢先なる峰の松を見て

ほゝゝさらさらと清ゆくこの和漢一ツ

西海まわりとこれを聞くふかく

やうらまこそ

義経やしこのくれ宿る時なる

雄代よりこの馬こそ送るこの世分の男

經冊はさせてこそふやさしこれをと

ものこれ

弥生を接てこの春むけこそ

不ト一月三志琴風亀進

ほゝゝきこの時峰やふるき硯条

京ゆくこの志京形ゆうや時多

昭時ゆくく

蜀魂大平穀をまこの月夜

ほゝゝこの時峰やふるこの和

木の目きこそ猪もんや村字

鳥紙壹社表ゆまわ部公

保ゝゝおこれ稀くこの村屋花

一あるの江を横ぎる橋ありて歌
枕にもとなる橋ふみや水のうへ
曙やまさる　朝日かげ　ちらす波
思ひ出す本堂や四月の　橋つり
ちるかぶとく　鹿のつをとむをうを
ひるがうおのとれかう　ものをも
灌仏の日　まうでの　花の下
灌仏や　鶯も合する　数珠の音
夜来　雲　二つ　葉のひとつ　ふる

禍の実や　落ちて　世をさく　酒
園　ちる　大顛和尚　ものを　月　花
ちる　発ほ　化　ちる　滋や　夏の
ちちを　ちる　まり　道　ちる
うまへ　中　夏　ちる　数
梅　ちる　ちる　卯　ちる　花　菊　ちる　涙　ちる　郭
其角ちる　毎　五七日　追善
卯の花　ちる　毎　ちる　宿　ちる　記
ちる　ちる　ちる　ちる　柳　乃　ちる　し

知足亭にあそぶとて

杜うつわまつみ業の句ぶりを仏ぶり

大坂にて武人の許にて

蘭の花かくるゝも枝の新しかるべし

山徒宗盤屋敷にて近衛殿乃

宗盤にて武乃人まつかたつゝさと

世しらぬことをとゝまて心のうちをふ

みかくる事深き人かたつたと

ものはなくく水流るゝ杜若

白々や対面の花は咲つゝむ

贈杜国子

白菅に招もしく蝶のかゝるふ

漁人の影ちらし菅の花のこと

くにはるゝちる

墨の新まつ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

まつ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

伊勢の国桑名の小路乃業門にあまて

吉田氏秋とう物しるる家名と

[illegible]

[illegible]

甲斐の国山家[illegible]

[illegible]

麦乃穂を洞[illegible]

武府を[illegible]

人[illegible]

[illegible]

麦の穂をこそ[illegible]

二度相兼[illegible]

東[illegible]

[illegible]

賜桃蹊新宅自画自賛

[illegible]

根[illegible]

[illegible]

[illegible]

日光にて

いかゝせんとすれば青葉の葉ごしの日光

須磨の浦一見の時

すまにもに新あめ笠きく本とゝ雲

雲雀なき奥そよ伊賀和尚の山居乃

次あり

本郷志賀寺やゝ過て反本ゝち

ゝ山の奥閑ゝ山ゝ人の住捨る

家あり幼住菴ゝふ法華塾の

住侍ゝ自然ゝ聽事ゝ法華ゝ

如月ゝ先ん勇入ゝ

先ゝ事ゝ毛推の木もけり反本立

松風乃為ゝ水のゝ音すゝし

清澄寺清ゝ寺ゝ毛青松葉

甲斐山中

山猫乃ゝ行ゝ山ゝ岡るゝ

あゝ山義の志きりゝ風のすゝ

大垣の堺ゝ日光御代参勅ゝ

扈從を園田何某を送る

簑の家 拷よ如きし 蔵りいう紅

画漢

るちくく 我を強てうこと及ばず

落拓のめ 拓きるきめをう 乱

ちちめ 拔いてて

ちを待ち人 丹青くん 蓋もこるの 非

稀有ふ人を 拔打乃 夏 非 ク 舟

殺生ちにちめ

石孔書や 反 墨 和 く 蔵 墨 ー

高館

基 草 や 兵 ち ち 夏 草 泊

非 の ち や 雅 ち き の 孤 孔 を ち ち

小 稀 屋 蔵 ち く

ち き 物 ー や 非 孔 ち ち 物 ち 人 の 累

早 度 む す ち ち 物 ち 源 川 の 屋 を ち 知 ち

ち ち ち む き ち 非 の ち 世 影 ち 光 を 待

能 那 ー 孔 孔 の ち く ー 家 を き ち ち し

う[illegible]我を[illegible]
[illegible]出よかしと屋うしの乃ひきの春
わ[illegible]の宿も牧の小さき[illegible]張之小
かつ[illegible]賣いう[illegible]人を碎き[illegible]ん
[illegible]食を生く出まく[illegible]ん[illegible]り鑓
[illegible]み乃流れて
[illegible]附を踏て[illegible]夏の初
あ[illegible]先生り[illegible]の[illegible]乃さ[illegible]へ
俗士に[illegible]

上

を乃[illegible]日[illegible]
花[illegible]やめ一夜[illegible]
[illegible]書[illegible]義経乃太刀
弁慶[illegible]
[illegible]乃[illegible]紙幟
[illegible]
[illegible]畫[illegible]
[illegible]
あやめ[illegible]結ん[illegible]鞋の[illegible]
[illegible]行[illegible]

病中自詠

髪はえて容顔蒼し五月雨

さみだれにかくれぬものや瀬田の橋

実方中将の塚も此の五月雨に道いとあしく
身つかれ侍れは余所なから眺やりて

笠しまはいづこさ月のぬかり道

光堂は七宝ちりうせて珠の扉
風にやぶれ金の柱霜雪に朽より

五月雨の降のこしてや光堂

さみだれをあつめてはやし最上川

日の道や葵かたむくさ月雨

落柿舎にて

五月雨や色紙へぎたる壁の跡

さみだれや蚕わづらふ桑の畑

露沾公に申侍る

五月雨に鳰の浮巣を見に行ん

大井川水出て島田塚本氏のもとにとまる

さみだれの空吹おとせ大井川

五月二十日の夜更て月出ける

月千かゝる時やはさゝ原月出

後の夜やとゝふ橋も葉ゝ白ひ

眉掃も侍しゝを和歌の芝

つゝゝゝと桜の花の神千ちる

山ゝうゝと撞や面ゝ寂寞

葉つゝ已白亭に日ゝ暮ゝて

やゝもせん藜の杖ゝ寄る日まで

象潟や雨ゝ降ふの花

栗の木陰を拾ひて世をつゝふ

侍あり可仲と云

世ゝ人乃乃ゝ牙ゝ如ゝ笑や新の栗

華白ゝふゝ咲ゝ我隈の松見勢

中世生ゝ錆ゝ錆ゝ錆ゝ錆ゝ錆ゝ

撫ゝ松ゝ二本ゝ三月こゝ

世ゝ遠ゝ苔ゝ影ゝ小庭ゝ別ゝ座ゝ

あゝゝゝゝ帷ゝ財乃ゝ涉ゝ

象柿舎

[illegible]

森川許六餞別句二句

桂乃花の公事ゆゑ仏よ本雪の旅

うち捨人社桃もかくへ本ろろ社縄

山中遥に尋

蜜風馬の尿する　桃　小

この境ろろ[illegible]

乃ゆゑや

うゝ清ゆり角ゆりわまよ浜麻あの

[illegible]

本雪清の桃田ゆゑて大津土そ

ゆゑ社ゆゑる田ゆゑの月よろゝへゝん

茅乃雪ゆゑゆゑ[illegible]ゆゑ

[illegible]見

[illegible]

已ゝ火を本ゝの雪や茅乃者

[illegible]あゝきゝる小

奥州白川郡

関屋の宿より矢篠を関屋の

大津湖仙亭

この宿に水鶏かるめ庵かる

露川亭

たゝに山田氏の家にかり宿す

水鶏なくと人の戸たゝく佳句浦

特別に

いつゝ松山中に一泊

中ごろ雨ふる川乃鮎 鮓

特別に通りあるく行あるて

おもろくてやすらへ越一泊特別

雨打くる田ゝ

清水流るゝ柳かな早苗乱

ひつて田の畔をぬらいつゝ行あるく

ゆかしさを柳の陰ふきて涼

ゆかりつる

田一枚植ゑ立さる柳哉

奥州今の白川まゐる　二句

つゆ苗ふかし色　遠き日数哉

西う東丸まの早苗ふ風雲寺

名窮こふふ白川の関ふ

さてうつくしや宮ふ

風流のそしめや植くれ田植うた

志賀の里もちすの名を聞くく

つゆ草くくるものしや志の為搭

生付一馬のかたうや田植搭

尾張うて書更ふ書と

世を捨て代ふく小田植行のと季

孫ふ山ふの繁うて投網う園ふうう

重行亭ふ

先つくしや山を出ての初茄子

佐田塚市氏うて

昔ふまさまさ葉なうや茶ふ

仏蹠日

陰ふふふ仏棲る日ふ墓ふ

明石夜泊

[illegible]き夏を夏は月
月をみるにも袖ぬれぬ浦の夏
[illegible]ぬ月
夏乃月清涼あるの赤坂う

曲翠亭

[illegible]
[illegible]

稲葉山

[illegible]の蝉

立石寺

[illegible]入せミ乃多

無事迅速

やうて死ぬ事[illegible]蝉の色

人ゝ性をもつ[illegible]

いてやうまきき布きうう蝉ろを

[illegible]ろむきる像

[illegible]人のうろむき

佐渡の中山峠

金竹の間の下すゝこ

風瀑を旅別れ

夏草枯れ八小屋の中山峠すゝ兎

破風に日影やゝ傾く夕ぐゝみ

長谷川十八樓

世あまの目小見山峠咲きもし

尾花沢清風子

涼しさや日の暮れて海まろり

すゝきやかの三日月は羽黒山

ひつゝ山や吹浦かけて夕ぐゝ兎

汐こしや鶴脛あらて海すゝし

花ぶゝ溝くよりまて撫の老木

西行法師の記念をのこれ

夕ぐゝれや撫子むく涙乃花

小鍋ぐゝ稲ぐゝ稲ぐゝ穂乃穂

日光川原鶴源

川風や薄ぐゝ見ぐゝる夕ぐゝ

田家

飯あふく煙うちそそぐや夕すゝん
川中に根まよゝろかすゝのあ
[illegible]
さゝしけらゝゝ田ゝゝ住居ゝ
雪ゝゝゝ松を植ゝを
涼しさや[illegible]に神松の枝乃形
さゝしけを[illegible]
風のまゝ生[illegible]川

羽黒山

有ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 南谷

丈山の像を[illegible]

風[illegible]羽織を[illegible]

さゝ[illegible]風のかほりお[illegible]子

小倉山常寂[illegible]

松杉を[illegible]風[illegible]音

雲のゝゝいゝゝ[illegible]月の山

[illegible]や暑さ[illegible]乃峯

[illegible]間[illegible]馬[illegible]郷[illegible]を稱て　二句

ひ[illegible]と[illegible]の[illegible]扇や[illegible]の[illegible]ぬ

蓮乃香に目を加[illegible]や面乃鼻

夕[illegible]の白く[illegible]の後[illegible]紙帽[illegible]

ゆふ[illegible]酔[illegible]く[illegible]を寒乃宮

夕かほ[illegible]干瓢む[illegible]て越[illegible]

[illegible]播[illegible]む表[illegible]書

[illegible]の花のみ[illegible]の後[illegible]屋[illegible]

[illegible]よ[illegible]見咲ぬ凡むらん

書[illegible]の[illegible]へ文の[illegible]

[illegible]に[illegible]の[illegible]の山

河[illegible]松[illegible]宮[illegible]と[illegible]

凡の[illegible]を[illegible]に[illegible]の[illegible]

[illegible]

撥面[illegible]

[illegible]の花[illegible]

梅葉山の[illegible]

山の[illegible]畑

初もの葉に見るやうん滝もあり
花と実と一度に血はきうの里
夕ふも鶴の毛つゝ流れの色
朝霧の中よりそすゝしき風の泥
柳こゝ行方のさゝし初もの葉

之道を求して

我丁一個に二つに引ゝ実葉ゝ
ゝゝ度むゝゝ葉や 葉玉 聖

正成像 鐵肝石心此人之情

接ゝ中かゝ那須や 楠の 葉
醉ゝ凝ん 接ゝ多 ゝゝる 石 上
藻の実ゝ 流 清ゝ ん 茶のあと
ゝゝ礼 ゝゝ ゝゝ ゝゝ 清 水 ゝ 那

岐阜山

城 治や 古井の 清ゝ 先 同ん

那須の温泉 那 の 相 殿 ゝ 八 ゝ ゝ

ゝ ゝ ゝ ゝ 神 一 方 に ゝ ゝ

流 ゝ む ゝ ゝ 拾 ゝ ゝ も 同 ゝ ゝ 先 清 水

山もとのうすもみぢや蔦まきのく紅葉する

晋の湖水をうらやむ

窓形よ至孝のこころやまこもむしろ

よろこぶ方はうつくしもみて去るの

洋へゆつるる

ゆきの人の小神も今や去用なし

修行光明もにて行者まもるを

夜山の足駄をねむそ途こう邪

秋鶴を人の使系に送す

山ぶこ庭もうつくしき入るや夜堂安

杜鵑

鳴くやふかくにたてそ墓恋

新屋豆水事にて

水の形く氷室 形 柳 うれ

異きき日を海よ入るうるこ川

水晶月山ふくこ猫やこ新異きうる

ふ月や 鶏 ふ 柳 も 猫 ら ら

ふ月や 嶺 ふ 平 ま く 嵐 や ア

不卜亡母追悼

みづのくに法ゝ[illegible]へ道明寺

なつまくさ〳〵小ぢきう上の鶯乃腸

世ゝ夏や湖水ゝ[illegible]浪のうへ

本節亭ゝ[illegible]

秋ちう死公のうゝや　只孝半